

## 平成26年度第2回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

### ■ 開催概要

開催日時：平成26年10月22日（水） 18：30～19：50

開催場所：函館市役所8階第2会議室

出席委員：奥平委員，安井委員，内沢委員，尾山委員，金道委員，木村委員，佐藤委員，  
渡邊委員

欠席委員：畠山委員，須田委員

函館市：観光部長，同観光振興課長，同コンベンション推進課長

### ■ 次第

- 1 開 会
- 2 議 事
- 3 そ の 他
- 4 閉 会

### ■ 議 事

- (1) 平成27年度観光関連予算編成に向けた意見交換について

(奥平座長)

先ほど、観光部長から「北海道新幹線開業」「函館アリーナ」「インバウンド」という3つの話があった。これらに沿った形になるが、平成27年度観光予算の方向性について、皆さんの意見・質問はあるか。

先に私から話をしたいと思うが、交流人口の拡大ということでは、積極的に姉妹都市や親交のある都市と交流を進めることが重要である。特に、台湾との直行便のお陰で多くの台湾人観光客が来ていることがあるので、政局との兼ね合いもあるが、現在休航中のソウル便の再就航を目指すべき。また、LCCの誘致により、さらに良い効果が期待できると考えている。

(金道委員)

宿泊業としては、まずは函館に来ていただくこと、そして満足してもらいリピーターに繋げていくことが重要だと思っている。

新幹線に関しては、函館に滞在していただくことが重要だと思うので、新幹線乗客のうち、多くの方に函館を訪れてもらえるよう、新幹線駅から現函館駅への乗り換えをス

ムーズにすること、また「指宿のたまた箱」のような観光列車が人気を博しており、多少高くても楽しい輸送手段を選びたいという観光ニーズもあると聞いているので、函館の場合、アクセス列車がどうなっていくのか気になっている。

インバウンドについては、湯の川地区でも明らかに増えてきている。ただし、施設によって受入の考え方が違うので、地区全体での取り組みとはなっていない。一方で、バスや航空機の料金上昇により、国内観光客が減少しているため、インバウンドで穴埋めせざるを得ないという状況であり、今後、国内客との兼ね合いでどう見ていくかが課題となっている。

アリーナについては、湯の川地区にできるということで、各施設からも近く、積極的に取り込んで行きたいと考えている。課題としては、スポーツ合宿では、コインランドリーや昼食の需要への対応がある。湯の川地区が徒歩圏内であることを知らない旅行会社も多いことから、積極的にPRしていこうと考えている。

(奥平座長)

観光列車に関わり、新幹線開業によって、SLが廃止されてしまうといった、観光振興とは逆方向に動いている事例もある。

(佐藤委員)

新幹線では、新幹線駅から函館までのアクセスラインをどう作っていくのか、ただ運べばいいということだけでなく、利便性、魅力を高め、どれだけ演出できるか、その提案が大切である。一番問題なのは、開業後であり、何年先まで見据えて誘客に努めていくかを揃えて進めて行かなければならない。

まちづくりということで、歴史的なものと中心市街地活性化事業など新しく生まれてきているものを連動させ、街並みを見るだけ、街にいるだけ、歩いているだけで、何か感じられるような街並みを作っていくことで、夜景だけではない魅力につながり、リピーターを獲得できる。横浜のみなとみらいを開発する際には、近代的なエリア、歴史的なエリア、遊ぶエリアと、3つのコンセプトに分け、その連動をどうすべきかということを考えて実施したと記憶している。函館も同じ港町ということもあるので、そういう点を考えていくべきである。

アリーナに関わって、ホテル業としては、新幹線と同じくらいMICEには期待している。ただ、市内のホテル同士の競争の以前に、例えば札幌や沖縄との地区競合を、どう勝ち抜いていくのかという課題がある。函館にはこういう施設がある、またこの様なことができるというセールスツールが必要であると同時に、多くの営業マンがいるのだから、行政と民間が一丸となって函館セールスができるようになることを期待している。

(内沢委員)

インバウンドの取り組みとして、函館バスでは5月から北海道大学の留学生に、函館山登山バスの車掌業務に従事してもらい、外国人観光客に母国語で対応している。また、3年前から、駅前バスターミナルで留学生に案内をしてもらっているが、食事など夜の情報を求めている方が多い。先日、九州に行ったが、英語表記が多かった。看板一つとっても、クオリティを高めていかなければならないと感じた。

新幹線の二次交通に関しては、函館バスとしても取り組んでいるが、こういった路線が良いのか、生活路線との兼ね合いも含めて、考えているところである。

(奥平座長)

新幹線は、一編成の定員が800人ほどだが、アクセス列車は400人ほどしか乗れないので、積み残しが出る可能性もある。そうしたイメージダウンは避けたいので、乗り換え需要の調査が必要であると思われる。

(木村委員)

外国人観光客から寄せられる不満は、交通に関してのものが多。交通機関は整っていると思うが、使いこなせていない。特に、五稜郭公園への行き方が分からないようだ。

また、ガイドの説明を通訳することが多いのだが、函館の紹介として、あたかも150年前に歴史が始まっているような説明をしている。特に西部地区やベイエリアには100～150年前の建物が多く残っているので、どうしてもそういう印象をもたれてしまう。外国の方にとっては、150年前は短い歴史でしかない。それ以前の歴史、例えば昆布漁はもっと長い歴史があるので、そういった点をアピールしていければ。南茅部は、このほか、縄文文化など、古い文化を感じられる場所だと思うので、この地域へのツアーや交通機関の利便性を考えていくべきと思う。

(尾山委員)

毎年一回野外イベントを開催しており、来場者にアンケートをとっているが、道外からは1割くらいしか来ていない。アクセスがない、チケットが取りづらいという理由が一番多いと分析している。新幹線開業やアリーナ開業を機に、魅力ある発信でいろいろな方向での演出が考えられる。新駅からのアクセスが20分かかるということに対して不満の声を聞くこともあり、その乗車中に函館の良さを発信していくべき。

(渡邊委員)

金森倉庫群の開発が始まったのは、26年前で、ちょうど青函トンネルが開通した時期。以前は夜も暗く、人の寄りつかない場所であったが、今では年間来場者が観光入込数と同じくらいにまでなり、インバウンドも増えてきている。

今年の地域ブランド調査で、函館市が第1位に選ばれた。これをインバウンドプロモ

ーションに活かすべき。日本人の評価が高い場所には、外国人も行きたいはず。そして、第1位を誇るからには、がっかりさせるわけにはいかない。おもてなしができるかどうか。これまで市や観光協会の宣伝のほか、民間の努力、例えばホテルの朝食の評価が高いことなど、市全体で勝ち取った第1位であり、今後もさらに磨きを掛けていかなければならない。

事務局に質問であるが、冬にイルミネーションを実施することだが、年間を通じて行うのか。また、アリーナの大型化に伴い、駐車場の不足が懸念されるが、対策をどのように考えているのか。

(事務局)

駅前のイルミネーションは、11月末から2月末まで点灯させる予定。新幹線開業の年には開業の3月末まで延長させたいと考えている。点灯させる場所が、夏場は花壇になっていることから、冬場はイルミネーションで、夏場は花壇で、おもてなしをしたいと考えている。

アリーナの駐車場に関しては、競馬場など周辺駐車場の活用や、公共交通機関の利用促進で対応していきたい。

(安井委員)

新幹線開業によって、競合する航空路線が維持されるか懸念される。

初めて函館に来たときに感じたのは、空き地が多いなど、寂しさを感じた。全ての街並みを整備することは難しいが、せめて観光客の動線だけでも重点的に整備することはできないのか。

(事務局)

まちづくりには非常に長い年月が掛かる。観光客だけでなく、住民にとってもいいまちづくり、先ほど佐藤委員からもあったとおり、いるだけで気持ちのいいまちづくりを目指しており、まずは駅周辺から、中心市街地活性化ということで手掛け、その後、点を線に繋げ、最終的には線を面にしていきたいと考えているが、5年や10年のスパンでは決して辿り着ける道のりではない。3年前に渡邊委員とパリに行ったが、見て回る必要はなく、街角でコーヒーを飲むだけでも満足できた。パリは何百年も掛けてできた街であり、すぐ函館がそうなれるとは思わないが、官民一丸となって目指していきたいと考えている。

(安井委員)

観光客目線で考えていくことも重要。例えば台湾の人が函館に来て何をするか、というストーリーを考えながら、まちづくりに取り組むべき。

今は、函館に住んでいる我々がおもてなしをしているが、外からはどう見えているのかを意識して、しつらえを考えることも重要。

(奥平座長)

大変、示唆に富んだ話である。内から見るのと外から見るのでは全く違う、視点の違いで見え方が変わるということ。おもてなしの質を上げるためには重要である。

また、東京便の航空路線維持に関わって、減便なのか、機材の小型化なのかによって、利便性が異なるので、航空会社の対応を確認しておいた方がよい。減便では、航空会社の撤退にも繋がりがかねない。

(事務局)

「4時間の壁」という言葉があるとおりに、所要時間として4時間が航空機利用と新幹線利用の分かれ目となるが、函館の場合は東京から4時間を超えることとなるので、都内の方の航空機需要はさほど落ちないのではないかと考えている。新幹線開業が、即、減便に繋がるということまではないのではないかと考えている。

(渡邊委員)

観光協会によるプロモーションに対する反応では、東京は新幹線にさしたる興味を示さないが、仙台など南東北・北関東では食い付きがいい。我々も、開業後も航空路線は維持できるのではないかと考えている。

(奥平座長)

アリーナ開業に関わって、スポーツイベントの誘致はどうなっているか。

(事務局)

アリーナおよびフットボールパークの開業により、これまで開催が難しかったイベントの受入が可能となることから、PR活動に力を入れているところであり、アリーナについては全道・全国から約40件の予約が入っていると聞いている。今後も地元関係者のスポーツ関係者の協力を得ながら、教育委員会と連携して誘致に努めてまいりたい。

(奥平座長)

提案というより助言だが、既に廃校が決まっている凌雲中学校を隣接する陸上競技場のサブグラウンドとして整備することで、現在の第2種公認陸上競技場から第1種に格上げ可能となり、これにより開催できる競技会のレベルが上がる。北海道には第1種が札幌厚別公園競技場しかないので、さらに誘致の可能性が広がる。

小さな大会でもかなりの経済効果が見込める。観光としても、効果は大きい。通年型

を目指すならば、冬期間でも誘致が見込めるアリーナを活用していくことも大切。

(安井委員)

北斗市など周辺自治体との連携はどうなっているか。

(事務局)

広域連携ということでは、北斗市・七飯町・森町・鹿部町とで、北海道新幹線新駅沿線協議会を組織しているほか、昨年3月には、青森県の青森市・弘前市・八戸市とで、青函圏観光都市会議を設立し、様々な取り組みを進めている。さらに、日高・胆振地方など、いろいろな地域との連携を深めてまいりたい。

(奥平座長)

今回の会議では、各委員から様々な意見が寄せられた。これらを予算・施策に活かして欲しい。

(2) 市政はこだて掲載記事の輪番について

(奥平座長)

それでは、次の議題に移る。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(資料5に沿って説明)

(奥平座長)

輪番の順番はどうすべきか。(委員名簿の順番でという声を受けて)それでは、委員名簿の50音順とすると決定したい。

■ 閉 会